



18
1898
2



13
1298
2



坂田金平右平記卷之二

目録

- 一 悪童子亡父逢神靈事
- 一 國初及送付公平事
- 一 公平射殺國初事
- 一 公平入洛付對面武經事

統て日本國中と近なり。我よよこも大カれ去や
カ量修めして事なり。大元冒余別ハ下不及
天皇まをて経歴し。主別業と例えんとてひ定
る居たり。多々人の日ももや入相よぬり。以一通ハ
白雲修くして曝布れく。能く主内よ。数平
斗と打刃て。主指凡人よも。前英威の大程
赤地の強乃重意よ。白星此甲の結と志。駕のる
よ。亦兼て。大石カ十字文字よ。帯一。くる。岩屋の前
く。馬ゆる。と。兼投し。徐く。と。お。なる。童子を。と。見
て。雷乃ぬる。多。多。と。例。例。え。る。れ。が。色。色。へ

立り命なり。先よ。と。し。と。冷。く。と。云。け。さ。は。ち。か
し。と。も。若。石。枯。木。と。投。の。り。く。岩。屋。の。内。へ。つ
と。入。我。も。母。父。乃。と。例。よ。は。力。の。強。小。元。小。後
し。と。主。君。頼。光。曰。天。王。法。在。小。劫。卒。の。果。と。信。し。い
て。と。例。神。の。勅。小。の。唯。今。友。よ。本。現。口。や。き。を
と。例。此。山。事。が。海。や。警。の。前。あ。て。二。此。眼。ハ。赤。を
と。例。て。後。乃。面。小。洒。く。ら。が。ぬ。く。面。赤。し。と。頼。骨。あ。き
鬼。と。や。人。の。刀。る。ぎ。と。し。と。暗。愛。し。と。わ。む。は。流。石。の
童子父公。時。と。事。ら。も。あ。と。さ。ん。と。わ。く。と。後。此
妾。見。の。親。小。志。と。と。く。と。を。ら。り。付。て。ぞ。収。る。公。時

ハるハ新女が昔は河の常陸に頼りては人
今もまゝの力も方丈は揚も四相を怪曲するこ
人かたはるふいけいもいもははるはるして斗を
かへし内を約て討て一母刀ハ系我場より毎に
詔と討て殺と知も大いふよむてハ多れ鬼と控
切よりしり鬼切と号又尺八寸今ハ事ハ
是と控授して武の備も急首張と加
く坂回公平と名乗べし。傳波ハ此家子や程
来とちうんといふ月々もきと親ハ一陣ハ狂風
系トつて重男とたよ尺八寸より。公家御で座

衣を何といふたうや流石我父も有るも以上ハ所
もよく男にめんと。禁は流ら少細水と流ハ
押りて居候とみて至理こらに判落し。あはれに
親ハ是ハ苗世やう此系繋。あさう父ハ時ハ傳
よくも細ら婿ハ中。独笑して史とるも時ハ神
ふまう心ハ此は施をやり。戸荒とと出らるる
子衣腹ハ綴のゆり砂を控して尺八寸ハ中
く人も細しん。夜よりん馬にそ系衣張と
若く志に以て逢し。奪るんおとと思ふ家よ。
是ぞ家家ハ侍ハ東國とる。政治ハ神とおふんて



人より勇く安し立佐乃新羅ふやん降参侍て
あま。公平さゆりて天の命とほりて立り
馬の口と強し是をこし那素の者ありれ也
途より事外れで出る我は借しと云。侍を
狼藉するも麻末め。足苦しき有指して面介子
万。自余の若くは遠べ。おれは同じおん人と一
指高き強例えん。と聞て。日本一の力か握る
る事あるは。その名も知らぬ。公平人乃
眼と睦け。凡は男が中け。おとらぬ。事
一。貸しつうは借しん。借中。そ。知。通。弱。こ。

はんでいから。ら。と。夜。お。を。刑。二。三。子。玉。う
持。ふ。多。多。た。こ。ほ。志。の。泥。房。と。い。ふ。く。お
援。連。て。ま。と。ま。ま。と。い。う。れ。白。く。公。平。の。う。と。お
多。い。ゆ。と。も。も。る。ら。く。或。も。是。が。新。く。お。ん
と。い。ま。に。つ。ま。う。ゆ。と。大。勢。れ。と。人。馬。と。投。付。大。力
を。素。破。と。い。ふ。ま。ぐ。う。切。と。も。と。れ。む。ゆ。ゆ。極
べき。前。よ。ま。ま。あ。ご。た。の。あ。に。湯。き。め。と。ゆ。ゆ。色
ま。く。お。美。々。公。ま。い。ら。静。ま。夜。服。を。着。し。是。も。今。度
乃。は。鏡。は。れ。は。ゆ。ら。く。と。も。に。お。ま。一。る。場。を。地。た
り。ける。は。ゆ。い。赤。裸。と。い。う。眼。り。そ。ふ。お。地。の。あ。ん。を。ゆ。る

舞子れおしくとせよ初摺して極麻極極の極う我か
らと射ぬる。言内よ公平に麻ふんのめくも麻ふ
一も射ぬる大悪人といふまにとんとて地なる
えぬる上のをま。後馬の殺方。西正志の
極うく人を續む只一騎。若輩分て萬にる。わく
ぬよ幾年経るるたあ。大態多の舞子とわい
まろ。武ら引製。殺死るれ。くさむら。大悪
人を目無く一文字に致ある。團新馬。放し
て。うる。意態と様うゆ。小捨つ。心。態。ハ。つ。り。あ。り。扱
撃んと。わ。西。と。背。背。と。足。下。と。腹。と。あ。り。あ。ぬ。と。い。ふ。

まごう。あ。大。態。二。は。初。と。一。怒。念。一。返。て。ま。り。う。る。
公平をこに毛とんとく。初。理。う。ろ。と。矢。ま。ひ。馬。一。騎。
は。致。也。南。無。八。幡。氏。の。神。力。を。信。ま。と。か。る。う。放。
し。に。か。つ。き。射。ら。ま。ま。び。團。新。が。眉。間。の。書。中。よ。る。
の。を。碑。て。羽。夷。て。く。射。ぬ。ま。ご。う。の。大。力。と。又。
も。究。竟。の。矢。場。を。ま。で。血。煙。と。な。ふ。噴。と。け。云。平。る。
ら。飛。下。首。う。の。と。捨。落。し。津。先。ふ。書。き。た。書。り。を。
南。河。下。下。の。武。將。源。頼。義。公。播。代。の。侍。坂。田。公。内。が。
一。子。云。平。と。云。ま。也。只。今。必。死。を。一。夫。は。射。落。し。たり。
ま。の。部。と。あ。り。ま。の。く。ま。十。も。百。も。一。度。は。切。道。と。氣。

海をたぐりやる鬼のやうなる公事も不便なるは
せん神妙く主従する一命を助けし行内もよく勤小より
武將は日月見やせん佐の用を信じて長く公平を
ち獲して先城中へ攻る

公平入洛對面武經事

武經小初は常陸國住人として大要不疎及此全事初
一切を上より進みたり子孫の強き波の如く奉守し之を
常務せむ。武將の勅使立く急常列は致向し。
運使誅伐をききしに宮下有し人最て勅言あり。武
經を召し軍北吳人を向ふ武經將思案し是を

勇く後以大事めては皮圖形とす強盛常程の曲
者めて。身強細の如く白双も力よを大か子書古
今に双す。強乃下に弱をかりや。付はよを
一人を初弱成あり。万丈石高の僅なるは宮
易に退治成り。すは進みむと矢も無しぬ
之火とぬ及事。是古れは也。然バ火攻と用事此の理
風乃力はあどんべけり。は後先陣は自余は
は行内もよく勤小より武經事
先陣不を可戦内は我守す。向へち核實に懸して

敵兵怒をばと軍旗一変りたれど康平元年秋七月
 大將頼朝又万騎此邊を率し。其の倍をうらむ
 多し。或は信子外孫の精をささぐ一日先登て
 高嶺を先陣已ふ尾張の地へ入る。敵は一日人馬
 此處を休めを假を叫て敵の去來を伺ふ。初て
 公平へ降参の云たを和某坂田が初てお初入り。幸
 しくハけ申し人乃耳目とせらる。守程不知立べし。先一
 書よへ白給ふ之社の口社と大文字に書らる大旗其先
 小押立。二書い小を定る。守程五百人二初小列
 せ。之書ら大ね。四書大刀と振身とを被る。其二百人。

又書長刀の者二百人。六書兼人のる又十之騎
 池よりるゆき。其代時と勝々。七書よ之候の
 身よ三よ大悪ふが首級を獲れた。右此騎圍
 きびりく。小人四十人かろく。小あまをの
 主よ。其初立の侍二百人。一振よ甲冑と云
 し。手振弦をいりて。前並をいへる。其の侍
 二百人。は兼乃騎る列を。其代ハあは。二百
 騎。之百騎於合。其勢一万余騎。只ひく。乃馬
 抱り。大舞小舞る。平然地乃會ふ。其代ハく
 燈の書。其初日は。甲の星眼。是亮て。其代ハ

見事れ軍争やと目をむらりすづりて。日産兵
をきむおほふ。強別は侍らあめてハ初場
殺すけりあやう。武徳の陣よハとらや歌あさ
備と配り弓押張。下知あそくさ約あり。
武徳ハとらあ馬強あり。歌の陣とはくく
見く。ハ歌軍をたふる徳ハあそくささへて
東玉一香ハ歌乃有と麻。是程の人殺あさる若
を客の海とへさふあり。歌。青不裏る道ハ張
あさ歌の指子とらくあさる。つら道ハ武徳
が備代ハ侍今村海ハとらふ。と多あて歌
陳

よと付大あよと云らへ。抑あさハ実せりさる
大あさ雅人あさり。海守そ東玉討ハ先
陣とあさ。波色武徳殺向さる。歌。ハ絶あ
て揚負とて。味あさる。ハ陣と軍。対面あさ。
いふく。とさく。主。討軍。籠。困。る。而。一。負。の
大將。時。送。ハ。裂。頼。骨。あ。ま。て。面。赤。く。身。ハ。長
一丈。む。ら。り。出。ガ。郷。威。乃。置。組。地。ハ。輪。堂。と。令。あ。て
織。付。方。事。金。六。尺。余。の。大。方。短。毛。の。右。道。ハ。き
馬。ハ。青。貝。礫。ら。新。と。重。心。集。れ。厚。肩。筋。立。身
ハ。虎。お。皮。の。泥。濤。け。て。打。系。ハ。総。捲。ら。る。に

白旗のませく陳前すすめたの衣に解し
人よりたる大のし解。旗の棒乃八角を鉄の
おちるはあうけ。右の旁よの髪へ壳おれり
赤赤にして。宛も仁王を地換しうらむ。乃
身形も又尺柄も又尺乃地身と怪しくお
くげ色をともらゆ。危は。何は馬止れ大
富のくく。あら大善のき。日本林は。あが
及ぶ。南無小林もくも。湯をるれ。清和天皇
正末源頼光公の四月。て。田天王と。櫛さ
坂田公討つれ。石菩薩の大地乃。後を

二年貸て出生し。坂田公平。のよ。あ。戸
ふ。父公内。は。對面。一。家。重代。鬼切。う。い。を
を。清。お。お。お。常。清。小。立。就。鬼。非。い。い。り
之上。大。悪。女。を。只。一。矢。に。射。ぬ。妙。意。素。對。殺。活
糸。れ。軍。勢。と。率。し。必。死。が。首。と。古。香。に。奉。納。し
張。う。武。ね。小。獨。し。あり。二。代。の。田。天。王。に。伴。入
ん。と。我。を。目。に。つ。ぐ。る。を。あ。ふ。よ。武。徳。子。の。意
し。と。意。志。を。い。で。く。對。面。や。う。ん。と。馬。と。と。や。ち
て。あ。う。さ。だ。源。氏。は。び。張。り。の。て。い。中。氏。張。む。武
徳。も。大。に。い。は。る。を。い。は。る。き。公。平。に。對。面。し。た。が。い。よ

色代事いろしろはる。色いろの父ちちに何なにも。素もとが亡な父ちち後ご色いろ
 へん 傍かたわら家いえ中ちゆうあそ色いろ別わかて中ちゆうつらと。色いろへん
 初はつめ 對面たいめんし父ちちは二度にど色いろを地ぢはねる。色いろへん
 へん やく 素もとふは月つき見みあり本ほん飲の南なん徳とくつとさせん。色いろへん
 後ごへ見み身み同どうあよ何なに事こともり合あまぶしと。色いろへん
 後ご常じょうて 長なが將しょうの四よ除じゆよ素もと々々

坂田金平を素記を二紙

